



千葉県指定有形文化財

# 旧藪家住宅

時を超える風格を今に…





## オクノマ

畳6畳敷の部屋。ザシキの奥にあり床の間を設け、賓客をもてなす部屋として利用されました。



## チャノマ

17畳半と最も広い部屋で、中央に囲炉裏、北側に仏壇と押板(床の間の前身)があります。現在でいう「リビング」として利用していました。



## ダイドコロ

家族が食事をする部屋で、広さは10畳、床は板敷になっています。現在はテーブルで食事をとりますが、昔は床に置いたお膳に食器を並べて、ご飯を食べていました。



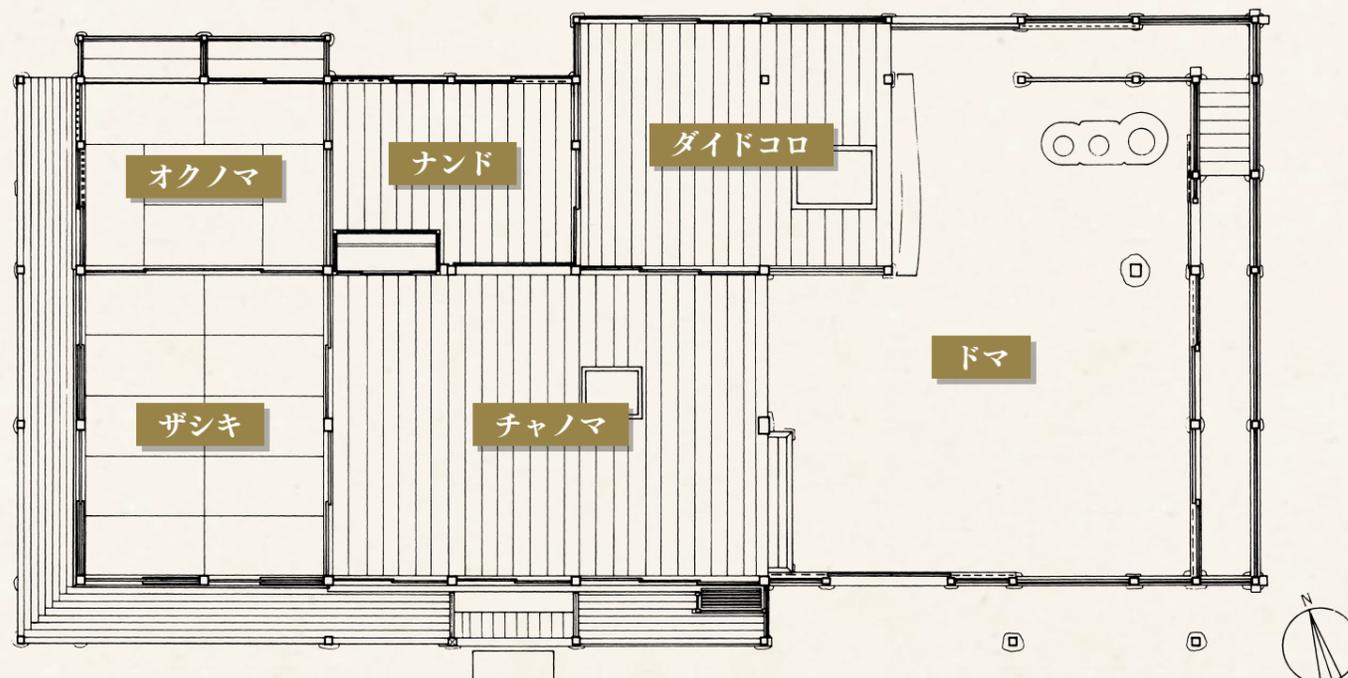
## ドマ

ニワバとも呼ばれ、食事の煮炊きをする土製のかまども置かれました。また、ドマでは藁打ちなどの農作業も行われ、玄関・作業場・炊事場・物置を兼ねた空間でした。



## ザシキ

畳10畳敷で、オクノマに続く南側の部屋。一般的には客間やハレの日の行事を行う部屋として利用されました。



## ナンド

ダイドコロとオクノマの間の、日が当たらない部屋。寝室や物置として使われました。

所在地／千葉県山武郡芝山町芝山414-1

所有者／芝山町

指定日／昭和49年3月19日

### 概要

藪家は現在の山武市板川で代々名主を勤めた家柄といわれる旧家です。建築年数などを示す資料がなく明確ではありませんが、建物の形式手法からおよそ17世紀末期から18世紀初期頃に建設されたと推定されています。昭和49年3月19日、江戸時代中期の県内上級農家建築の典型として、千葉県の有形文化財に指定されました。その後昭和62～63年に現在地へ移築されました。

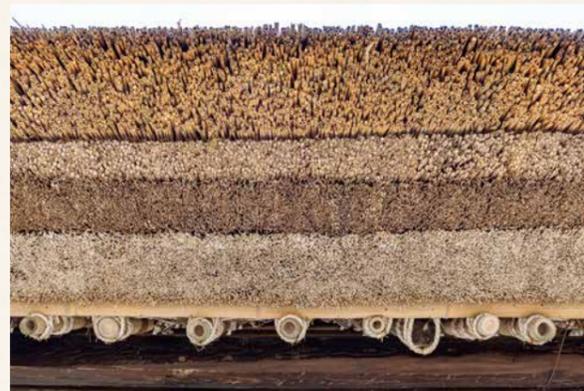
建物は、間口10間、奥行5間の茅葺寄棟造。5室で構成される間取りは、「ドマ」から入って17畳半の「チャノマ」、10畳の「ザシキ」、奥は床の間を設けた「オクノマ」、裏手は「ナンド」「ダイドコロ」となっています。

## 鑑賞のポイント



土間から上を見上げると屋根裏が見えます。屋根裏は屋根材がむき出しになっている家が多かったそうですが、旧藪家住宅は屋根材の下によしずが敷いてある丁寧な作りになっています。

屋根は下から藁、島茅、山茅、葦と違う材料で葺いているため4層になっています。かつてはこの層の美しさを競っていました。軒下からその美しさをご覧ください。



土間とチャノマの間にある大黒柱。よく見ると表面に凹凸があります。これは、現在のカンナが生まれる前まで木材の整形に使われていた「ハマグリチョウナ」の刃の跡です。

### 旧藪家住宅年表

17世紀末～18世紀初期	現在の山武市板川に建築(推定)
昭和47年11月	藪家から芝山仁王尊・観音教寺に所有権移転
昭和49年3月19日	千葉県指定有形文化財に指定
昭和61年1月	芝山仁王尊・観音教寺から、芝山町に寄贈
昭和62年10月～63年10月	現在地へ移築
平成11年1月～3月	茅葺屋根の北側を葺き替え
令和3年11月～令和5年3月	保存修理工事実施

# 旧藪家住宅保存修理工事について

現在の場所に移築の後30年以上が経過し、各所で老朽化が目立ってきたため、令和3~4年度にかけて千葉県からの補助金を受け保存修理工事を実施しました。工事内容は次のとおりです。

- 令和3年度 周辺樹木伐採、屋根葺き替え
- 令和4年度 縁側叩き復旧、U字溝清掃、土間かまど鉄枠製作、正面大戸敷居レール補修、土間叩き復旧、左官壁補修、畳表替え、障子紙取替、縁側補修、自動火災報知設備更新



茅葺屋根葺き替え

屋根材の葺は、耐久性に優れているとされる北上川の汽水域のものを使用した



屋根葺きの道具

茅葺屋根の葺き替えに使用する道具



土間の復旧

土間は土、砂、石灰、にがり混ぜ、職人が丹念に叩いて固めた



柱の補修

柱は、腐った部分を取り除き新しい木材で継ぎ足す「根継ぎ」という方法で修理した



## 交通

### 電車・バスをご利用の場合

- 芝山鉄道「芝山千代田駅」から芝山ふれあいバスにて24分、「芝山仁王尊」下車徒歩10分
- JR総武本線「松尾駅」から芝山ふれあいバスにて20分、「芝山仁王尊」下車徒歩10分
- ※芝山ふれあいバスは、日曜日・年末年始は運休となります。また、バスの本数が少ないので、事前にご確認ください。

## 千葉県指定有形文化財 旧藪家住宅

千葉県山武郡芝山町芝山414-1 (芝山公園内)  
TEL0479-77-1828 (芝山町立芝山古墳・はにわ博物館)

【公開時間】 3月~11月 午前9時頃~午後4時頃  
12月~2月 午後9時頃~午後3時30分頃

※風雨の日は戸を開けているため内部は見学できません。